

- 1 単元名 「どうぶつの赤ちゃんずかん」をつくろう
教科書教材をリライトした「どうぶつの赤ちゃん」
増井光子監修「ちがいがわかる写真絵本シリーズ どうぶつの赤ちゃん」

2 指導観

こんな子どもだから

◎ 対象：D児、F児

- 滞日歴：D児（約7か月）、F児（約4か月）
- 出身国：D児：マレーシア、F児：イギリス
- 母語：D児：マレー語、F児：英語
- 日本語の力：二人とも初期指導をワールドルームで行っている。日本語の学習には非常に熱心で、学んだことを一つ一つきちんと身に付けている。サバイバル言語(日本語学級Ⅰ)は学習済みである。現在「ひろこさんのたのしいにほんご」を使って日本語の基本的な文型を学んでいる。ひらがなやカタカナ、1年生の漢字もよく身に付けている。

◎ 本単元で予想される困難さ

- ・ 国語科の時間に取り出し指導をしているため、教室での国語科の学習の経験が少ない。説明文の学習でも一つの単元を通して学習した経験がないため、どのように学習を進めていけばよいのかが理解できていない。当然説明文の学習で用いられる学習用語「読みのめあて」、「おたずねの文」「答えの文」などについても理解が十分できておらず、教師の発問や指示等がよく分からない場面がある。
- ・ 教科書教材で用いられている語彙や文型のなかには、1年生の教科書とはいえ、JSL児童にとっては理解が難しいものが多い。

こんな単元で

○ 本単元のねらい

本単元は、3学期に行われる1年生の説明文単元「ちがいをかながえてよう どうぶつの赤ちゃん」の先行単元である。本単元のねらいは、3学期の説明文の学習に参加できるようにすることである。そのために、説明文学習の進め方にある程度慣れ、説明文の内容の大体を理解し、自分の調べたい動物の赤ちゃんについて簡単な文が書けるようにしていきたい。その際、言語活動「動物の赤ちゃん図鑑を作る」を通して指導することにより、説明の観点を見つけその観点にそって書かれている内容を読んだり、動物の赤ちゃんについての短い文を書いたりする学習に必要感が生まれると考えられる。

○ 学習指導要領との関連

指導事項イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む」を受けて、問いと答えの関係をとらえ、事柄の順序に沿って内容の大体を理解できるようにする。また、本単元では、観察して分かったことを説明する機会が多いため、AUのC-2「形状などを観察する」C-14「変化の様子について話す」を指導する。

○ テーマへの意義

本単元では、観点ごとに表に整理したり、観点ごとに尋ねたり答えたりすることを繰り返し行い、観点を意識して違いを考えることができるようにする。ワールドルームでも二人の児童同士で、観点ごとに説明させたり聴き合わせたりさせる。また、自分の考えが、どうやって深まったのかをポートフォリオに整理しながら振り返らせる。このことは「自分の思いや考えを伝え合う子どもを育成する」上で意義深い。

こんな手立てで

○ リライト教材の準備

本題材「どうぶつの赤ちゃん」は、JSL児童も興味を持ちやすい動物についての説明文である。文章は、「はじめ」の問題提示の後、「中」でライオンとしまの2つの事例について、生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子の二点から具体的に説明がしてある。構成や観点は変えずに、リライトする。理解を助けるために、写真も付け加える。

○ 体験的な操作活動

さし絵や写真、教材文を操作（並び替え、分類、比較）して、そこから分かることを言葉にするなど作業的・探求的な言語活動を通して、読む力や書く力を育てる。

○ AUカードの提示

・ AUカードで、1年生の説明文の学習でよく使う典型的な表現の型を提示し、問われていることに対して日本語でどう答えればよいかのヒントを与える。（例えば、おたずねの文はどれですか。答えの文はどれですか。等）特に本単元では、観察して分かったことを話すことができるようAUカードを作成する。

・ AUカードで提示した表現については、その型で発話させたり書かせたりして定着するようにする。

○ 国語科学習基本語彙の提示と理解

・ 「おたずねの文」「こたえの文」や「順序が分かることば」など説明文の学習でよく使われる学習基本語彙を提示し、その意味を理解させる。

○ 日本語指導を単元に組み込む

・ 教材文の理解に必要な日本語表現の学習を、単元計画に位置づけ、日本語の学習で獲得した表現が教科の学習で活用できるようにする。

目ざす子どもの姿

◇ 教科指導の目標

- 「どうぶつの赤ちゃんずかん」作りを通して、ライオンとしまの赤ちゃんの成長の様子とその違いを事柄の順序を考えながら観点別に読み取ることができる。

◇ 日本語指導の目標

- 観察して分かったことや考えたことを簡単な文型を用いて話すことができる。
- 説明文の学習で使用される用語（おたずねの文・答えの文・順序が分かる言葉など）を理解し、母学級で行われる説明文の学習に参加できる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	国語科（読むこと）	日本語
図鑑を作るという目的をもって進んで読み、「どうぶつの赤ちゃんずかん」作りに意欲的に取り組もうとしている。	書かれている事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、図鑑作りに生かしている。（イ）	観察したことや変化したことを、簡単な文型を用いて話そうとしている。（C-2、C-14）

4 単元指導計画（全8時間＋日本語指導2時間）

(1) 在籍学級の授業との関係

- ① 取り出し指導の時間 単元の全時間取り出し / 一部取り出し（ 時間中 時間）
 ② 取り出しの場合 先行 / 並行 / 後行

(2) 単元の展開

過程	学 習 活 動	国語科 A U	指導上の留意点
つ か む	1 単元のめあてをつかみ、学習の見通しを立てる。 (1) 「動物の赤ちゃんクイズ」を楽しむ。 (2) 「動物の赤ちゃん図鑑」と出会い、単元のめあてをつかむ。 「どうぶつの赤ちゃんずかん」をつくろう。 (3) 「動物の赤ちゃん図鑑」を見て、学習の見通しを立てる。	T これはなんの赤ちゃんでしょうか。・C○○の赤ちゃんです。 T この文を「おたずねの文」と言います。 T 絵や写真がたくさん入った本を「図鑑」と言います。 T これから、この図鑑をみんなで作りましょう。	◎「これ」「なん」「赤ちゃん」などの単語カードを示し、助詞を的確に使って問いの文を作らせる。 ○様々な動物の赤ちゃんを見せ、何の動物の赤ちゃんかを当てるクイズを楽しませる。 ○クイズを通して、動物の赤ちゃんへの興味をもたせる。 ○教師自作の「図鑑」や図書室にある図鑑を準備し、「図鑑」という用語とともに、学習の見通しをもたせる。 ○1時間に1枚ずつ図鑑のなかを作っていくことを知らせる。
	2 図鑑をつくるための二つの問いをとらえる。 (1) 前時学習を想起し、「おたずねの文」の特徴を考える。 ・「なん」という言葉がある。 ・文の終わりが「か。」となっている。 (2) 二つの問いがあることに気づく。 ・「生まれたときの様子」をおたずねしている文。…ピンク ・「大きくなっていく様子」をおたずねしている文…水色	・おたずねの文 ・どんな ・どのように ・ようす T 文のどこを見ると、おたずねの文だと分かりますか。 T おたずねの文はいくつありましたか。	○「なん」という疑問詞や文末の「か。」に着目させ、問いかけている文であることを理解させる。 ○「生まれたときの様子」をピンク、「大きくなっていく様子」を水色で色分けする。

	(3) 「生まれたときはどんなようすですか。」 「どのように大きくなりますか。」の意味を理解する。  	T 「ようす」とは目で見てわかることです。大きさや色、形などがようすです。 T うさぎの赤ちゃんは、生まれたときは、どんなようすですか。 T うさぎの赤ちゃんは、どのように大きくなりますか。	○「うさぎの赤ちゃん」の写真を用いて、「どんなようす」「どのように」などの意味を具体的に理解させる。
さ	3 「ライオンの赤ちゃんずかん」(生まれたときのようす)を作る。 (1) ライオンの赤ちゃんの写真から、生まれたときの様子を考える。 	T 写真から何がわかりますか。(C-2) ・大きさ ・目や耳の様子	○生まれたときの様子が分かるところに、写真に印をつけさせる。 ○言葉にできないことは、身体表現させる。 ○写真から見つけたことと教材文の対応を考えさせる。 ○ライオンの赤ちゃんの写真から分かること、教材文から分かることを板書に整理する。
ぐ	(2) 教材文を読んで、ライオンが生まれたばかりの様子を読み取る。 (3) 「ライオンの赤ちゃんずかん」にまとめる。	T 文を読みましょう。 何がわかりますか。 ・お母さんににている、にいていない	
	※「ひろこさんのたのしいにほんご46課」で、可能形(およげます)を学習する。 「ひろこさんのたのしいにほんご61課」で、能力(～ができます)を学習する。 次時の「あるけます」や「～ができます」の理解につなぐ。		
る	4 「ライオンの赤ちゃんずかん」(自分でできること)を作る。 (1) ライオンの赤ちゃんの写真から、自分でできることを考える。 	T 写真から何がわかりますか。(C-2) T ライオンの赤ちゃんは歩けますか。 C いいえ、歩けません。	○生まれたときの様子が分かるところに、写真に印をつけさせる。 ○言葉にできないことは、身体表現させる。 ○写真から見つけたことと教材文の対応を考えさせる。 ○ライオンの赤ちゃんの写真から分かること、教材文から分かることを板書に整理する。
	(2) 教材文を読んで、ライオンが自分でできることを読み取る。 (3) 「ライオンの赤ちゃんずかん」にまとめる。	T 文を読みましょう。 何がわかりますか。	
	※「ひろこさんのたのしい日本語64課」で、形容詞の状態変化(形+なります)を学習する。 次時の「大きくなっていきます」につなぐ。		
	5 「ライオンの赤ちゃんずかん」(大きくなっていくようす)を作る。(本時) (1) 写真を、大きくなっていく順に並び替える。 (2) 教材文を読んで、ライオンの赤ちゃんの大きくなっていく様子を読み取る。 (3) 写真と文と、どれが対応するか考える。 (4) 「ライオンの赤ちゃんずかん」にまとめる。	T 写真から何がわかりますか。(C-2) T 大きくなって、何が変わりましたか。(C-14)	○写真を時系列に並び替えさせる。 ○教材文と写真との対応を考えさせる。
	6 「しまうまの赤ちゃんずかん」(生まれたときの様子)を作る。 (1) しまうまの赤ちゃんの写真から、生まれたときの様子を考える。 (2) 教材文を読んで、しまうまが生まれたばかりの様子を読み取る。 (3) 「しまうまの赤ちゃんずかん」にまとめる。 	T 写真から何がわかりますか。(C-2) ・大きさ ・目や耳の様子 ・お母さんににている、にいていない	○しまうまの赤ちゃんの写真から分かること、教材文から分かることを板書に整理する。

	7 「しまうまの赤ちゃんずかん」(大きくなっていく様子)を作る。 (1) 写真を、大きくなっていく順に並び替える。 (2) 教材文を読んで、ライオンの赤ちゃんの大きくなっていく様子を読み取る。 (3) 写真と文と、どれが対応するか考える。 (4) 「しまうまの赤ちゃんずかん」にまとめる。	T 写真から何がわかりますか。(C-2) T 大きくなって、何が変わりましたか。(C-14)	○写真や教材文を時系列に並び替えさせる。
ひろげる	8 「どうぶつの赤ちゃんずかん」を完成させる。 (1) カンガルーの赤ちゃんを調べて、図鑑にまとめる。 (2) ライオン・しまうま・カンガルーの図鑑をとり合わせ、「どうぶつの赤ちゃんずかん」を完成させる。 		○リライトした「カンガルーの赤ちゃん」を準備しておく。

5 本時 写真やセンテンスカードを時系列に並び替えたり、写真と文の対応を考えたりして、ライオンが大きくなっていく様子を読み取る場面(5/8)

平成25年12月13日(金)第1校時 ワールドルームにて

6 本時の目標

(1) 教科の目標

- 写真やセンテンスカードを時系列に並び替えたり、写真と文の対応を考えたりして、ライオンが大きくなっていく様子を読み取ることができる。

(2) 日本語指導の目標

- 変化したことを話すことができる。(C-14)

- T ライオンの赤ちゃんはどのように大きくなっていきましたか。
大きくなって、何が変わりましたか。
- C ライオンの赤ちゃんは大きくなりました。
- C ライオンの赤ちゃんは、自分でえものをつかまえられるようになりました。

7 本時授業仮説

写真や文を時系列に並べ替えたり、写真と文との対応を考えたりさせれば、ライオンの赤ちゃんが大きくなっていく様子の大体を読み取ることができるであろう。

8 本時指導の考え方

(1) 本時のねらいと前時までの学習活動

本時は、状態の変化を表す形容詞の表現を理解し、ライオンが大きくなっていく様子をの大体を読み取することをねらいとしている。

前時まで、二人の児童は、ライオンの赤ちゃんの生まれたときの様子を読み取り、「どうぶつの赤ちゃんずかん」にまとめている。この活動を通して、児童はライオンの赤ちゃんが生まれたとき目も耳も閉じたままで、自分でできることが少ないことに驚きをもって気づいている。

本時はそんなライオンの赤ちゃんがどのように大きくなっていくのかを確かめようとする気持ちを高め、本時の学習活動に取り組ませたい。

(2) 体験的な操作活動の工夫

本時は、まずライオンが大きくなっていく4枚の写真を用いた学習から始める。写真をランダムに提示し、ライオンの赤ちゃんが何をしているのかを、「ライオンの赤ちゃんは、～をします。」の文型で答えさせる。語彙不足の関係でうまく言葉が出ないときは、身体表現もさせながら、教師が言葉を指導する。次にこの写真を時系列で並び替えをさせる。子どもたちは食べ物の変化や、体の大きさなどを手がかりに時系列に並べようと試みるであろう。しかし、写真からだけではうまく並び替えられないことから、文章を読む必要感をもたせる。

次にセンテンスカードの操作をさせる。このセンテンスカードには、ライオンが大きくなっていく様子が、分かりやすい日本語で書かれている。まずこのセンテンスカードを音読させ、意味が分からないところがないか確かめる。そして、このセンテンスカードがどの写真と対応しているのかを、言葉を根拠に考えさせる。それから、(二か月ぐらい、やがて、一年ぐらいたつと、そして)に着目させ、センテンスカ

ードと写真を時系列に並び替えさせる。その後並び替えたカードが正しい順序になっているかを確認するため、教材文を音読させる。

(3) 日本語指導の工夫

① 新出語句の理解に関する指導

本時に読む文章の中に次のような新出語句がある。

名詞：えもの 複合語：とりかた
動詞：とる つかまえる おぼえる

写真やジェスチャーなどを用いて、できるだけ文脈に即して具体的にその意味をとらえられるようにする。

② 説明文の学習に関する言葉の指導

「おたずねの文」「こたえの文」「じゅんじょがわかることば」など説明文の学習でよく使われる言葉を意識して使い、その言葉に慣れ親しませる。

③ 読みを深める指導に関する言葉の指導

本単元では、観察したことや変化したことを、簡単な文型を用いて話すことができるように育てていきたい。本時でも、「写真から何がわかりますか。」や「大きくなって何が変わりましたか。」などの質問に答えさせることで、この力を高めていくようにしたい。

9 準備

- 教師：リライトした教材文、センテンスカード、写真カード
AUカード、板書資料
- 児童：ポートフォリオ

10 本時の展開

学 習 活 動	国語科 A U	指導上の留意点 ◇国語科◆日本語
1 本時のめあてをつかむ (1) 作りかけの図鑑を見せて、本時はライオンの赤ちゃんの大きくなっていく様子を読み取ることを確認する。 (2) 本時のめあてをつかむ。	T今日は何を調べますか。 Cライオンの赤ちゃんです。 C大きくなっていく様子です。	
ライオンの赤ちゃんはどのようにして大きくなっていくのかをしらべましょう。 そして、「ライオンの赤ちゃんずかん」をつくりましょう。		
2 ライオンの赤ちゃんが大きくなっていく様子を写真から考える。 (1) 写真を見て、ライオンの赤ちゃんが何をしているのかを考え、発表する。	Tライオンの赤ちゃんは何をしますか。 Cおちちを飲みます。 C見ます。 T何をみますか。 Cわかりません。 Cほねを食べます。 Cしかをつかまえます。	○何もできなかった赤ちゃんがどのように成長するのかを確認しようとする気持ちを高める。 ◆語彙不足でうまく言葉が出ないときは、身体表現もさせる。 ◆「～はVます。」 「～をVます。」 の基本的な文型で発表させる。

(2) 写真を大きくなっていく順に並べ替える。 ○ 食べ物の変化 ○ 体の大きさの変化 3 ライオンの赤ちゃんが大きくなっていく様子を文から読み取る。 (1) センテンスカードを音読し意味の分からない言葉を質問する。 名詞：えもの 複合語：とりかた 動詞：とる つかまえる おぼえる (2) 新出語句の意味を写真やジェスチャーを手がかりに理解する。 (3) 写真とセンテンスカードを対応させる。 (4) 写真の並べ方を、文をもとに見直す。 (5) 教科書本文を音読し、正しい順序を確認する。 4 「ライオンの赤ちゃんずかん」を作る。 5 今日の学習をふり振り返り、学習の感想をまとめる。	Tライオンの赤ちゃんが大きくなっていく順に写真を並べましょう。 T音読しましょう。意味の分からない言葉はありませんか。 Tこの写真の文はどれですか。 T写真の順番はこれでいいですか。 T順序がわかる言葉があります。どれですか。 Tライオンの赤ちゃんは大きくなって、何が変わりましたか。	○手元で操作できる写真カードを準備する。 ○写真だけではうまく並べられないことに気づかせ、文を読む必要感をもたせる。 ◆語句の意味の理解を助ける写真等を準備しておく。 ○写真を正しく並べ替える際は、言葉に着目してわけを説明させる。 ◆並べ替えで困っている場合は、時間を表す言葉に着目させる。 ◆AUカードを提示しどう答えたらよいのかをとらえさせる。 ○センテンスカードを見ながら、図鑑が完成できるようにする。
---	--	---

1 1 板書計画






じゅんじょがわかることは

そして、
じぶんで
たべます。

つかまえて

一年ぐらいたつと、
おかあさんやなかまが
とるのを見ます
えものとりかたを
おぼえるのです

やがて、
おかあさんのとつた
えものを たべます

ライオンの赤ちゃんは
二か月ぐらいは
おちちだけのみます。

めあて

ライオンの赤ちゃんは、
どのようにして
大きくなるのでしょうか。